

第13回（通算第138回）放射線防護研究会の報告

2010年04月18日

文責：加藤和明（担当理事）

開催日時：2010年4月17日（土）13:30～17:45

開催場所：（株）千代田テクノル本社・2階会議室

出席者数：39名（内非会員14名）

研究会のテーマ：「安全と安心」

趣旨（案内文に記載のものを再録）：近頃世の中に流行りたる言葉多々あり、中にはその意味するところを十分に咀嚼・理解せぬまま、安易に使われているものも少なくない。「安全と安心」の対句は、その代表的なものであろう。万葉の頃、“母”をいうとき“タラチネノ”という決まった枕詞をつけていたように、多くの人がいとも気安く“安全と安心”と言っている。しかし、“安全（である）”とはどういうことか、“安心（できる）”とはどういうことか、と改まって聞かれると考えこんでしまう人が多い。生きていく上で付き合いをやめることのできない放射線とうまく付き合っていくためには、この問題を避けては通れない。今回の研究会は、みんなでこの問題を考えてみようというものです。

概要：首都圏に41年振りの降雪という“異常気象”に見舞われ、交通機関が乱れるという“想定外の事態”発生にも拘わらず、多数の参加者を得て、いつもの如く“熱気に溢れた”勉強会であった。予定の通り4つの講演が行われたが、講演Ⅲと講演Ⅳの講演と質疑により多くの時間を差し上げる方がよいと考え、講演ⅡとⅠの順を逆にした。

<講演Ⅰ>「安全学と安全道」：加藤和明（高エネ研・名誉教授）

安全は学問（安全学）を収め、修練に励むことによって“高み”に到達でき、心の安らぎ（安心）が得られるものである。その意味で「安全道」という概念を提唱したい。本フォーラムは、放射線「安全道」修行のための道場たらんと欲して活動を行っているが、その一環として「知の市場」に参画し、この秋から新たに“放射線と的確に付き合うために”との副題をつけて公開講座『放射線管理学』を開くことにしている。

<講演Ⅱ>「安全と安心」：松浦祥次郎（〈財〉原子力安全研究協会・理事長）

講演者が参加できない事情があったため、戴いた講演資料を代読により紹介した。Power Pointの操作を加藤が行い、テキストの読みあげは千代田テクノルの新田浩さんをお願いした。

“安心は個人の心に湧いてくるもの”であり、“安心と安全をつなぐ橋は「信頼」だと考える”といわれました。

<講演Ⅲ>「JAXA（宇宙航空研究開発機構）における『安全管理の方策と実践』」：五家建夫（元JAXA主幹研究員）

JAXAの前身「宇宙開発事業団(NASDA)」を含め、物理学者としての生涯のすべてを、

JAXA に捧げてきた講演者ならではの「知見」が、10 枚の A4 資料に非常に分かりやすく、かつ簡潔にまとめられている。現場で苦勞してきた者だけが語りうる、示唆に満ちた、逸話も沢山お聞かせ戴けたのは、本当に有難いことであった。

<講演Ⅳ> 「“安全と安心” は論じる意味があるのか、—化学物質と生物がもたらすリスクの管理を例題に考える—」：増田優（化学生物総合管理学会・会長）

A4 で 63 枚という膨大な印刷資料をご用意下さり、それには貴重な情報がふんだんに織り込まれていたのであるが、「資料は読めば分かるでしょう」とばかりに、スライドでは珍しいサウジアラビアの写真など予稿に載せていないものなどをほんの少し使って、非常に明快にお考えをお示しになられた。見識の広さと深さに感心したのはもちろんであるが、反語法とか論理の展開など、相手に伝えたいことを如何に効果的・効率的になすかという話術の巧みなことに、学ぶべきことが多かったことを告白する。

「専門家（エキスパート）」と「プロ」は全く違うものであること、我々は「プロ」になり、またプロを育てなければならないこと、プロは「事実 fact と論理」だけに基づいて話をしなければならない、と諭された。

全くその通りと思うが、「安全と安心」に係るハナシで取り扱う事実には、未来に関すること故“不確定性”が付きものであり、また過去や現在に係る事実には往々にして“不確実性”が付きまとうという特性がある。そして、(それゆえに)、因果を結ぶ論理が、日常生活で慣れ親しんでいる“必然性の論理”が使えず“蓋然性の論理”を持って来なければならないところに、困難があり、そこに“技術”としてさらなる発展を目指さなければならないものと思われる。

増田先生も、若手のプロ育成の必要性和重要性を説かれたが、このことは我々も日頃痛感していることであり、その意味では、放射線防護を専攻する、東大の大学院生が 3 人参加してくれたことは大変にうれしいことであった。

以上

2010 年 4 月 21 日追記

昨日、大阪大学名誉教授で原子力安全委員会委員長代理もお勤めになられた、住田健二先生から、「安全道」の用語は伏見康治先生が既にお使いになられているとのご指摘を戴きました。大分前に日本原子力学会誌の巻頭言に書かれているとのことですので、これから調べてみる心算です。